

うまい!

# 岩船米づくり情報 秋の土づくり編

平成28年9月  
岩船農業振興協議会  
村上農業普及指導センター  
JA にいがた岩船

何より大事な土づくり!

岩船米の高品質安定生産のために...

## 収穫後は来年のために土づくりを!

### ◇稲わらやもみ殻の秋すき込みで土づくり ～原材料費タダ!～

#### ○稲わらは、地力の向上に効果があります

稲わらの秋すき込みは、堆肥施用と同等の「土づくり」効果が期待でき、毎年続けることにより保水力や地力窒素が高まり異常気象時にも稲の生育や登熟に役立ちます。  
※ただし、春にすき込んだ場合は、ワキの発生が多くなり、初期生育に悪影響します。

#### ○もみ殻は、ケイ酸質資材として活用できます

もみ殻の約2割はケイ酸分であるため、単収540kgのほ場のもみ殻を全て田んぼに戻すと、ケイカルを約80~100kg散布したのと同様の効果が期待できます。

#### ○地温が高いうちに秋すき込みをしましょう

稲わらやもみ殻を活用するには、秋すき込みが重要です。稲わらを分解する土壌微生物は、地温が15℃以上で活動が盛んになるため、地温の高い10月中旬までに5~10cm程度の浅うちですき込みましょう。

#### ○省力的なもみ殻の散布機もあります

もみ殻の散布は、トラクターにコンテナ式のもみ殻散布機を付けて散布（自然落下）すると1回の散布量が多く、手間も少ないため省力的です。

また、通常の軽4輪にもみ殻を積んでほ場内で散布することも可能ですが、1回の運搬量が専用の散布機に比べ少なくなるため、荷台にコンパネを立て、積載量を増やすなどの工夫をすると良いです。

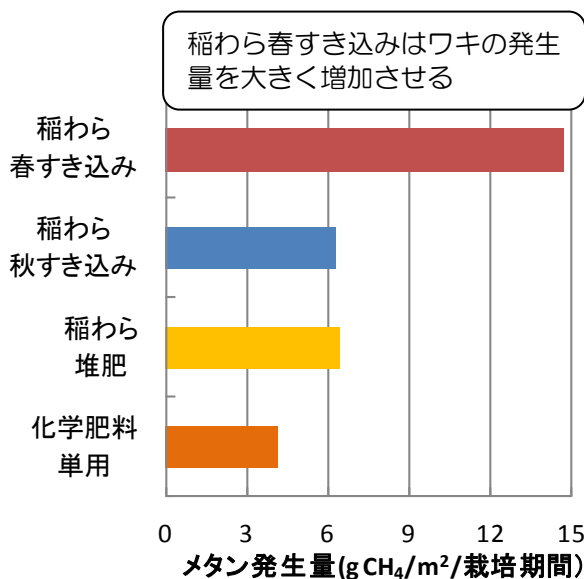


図1 水田からのメタン発生量に対する稲わら処理の影響(平成5:新潟農総研)

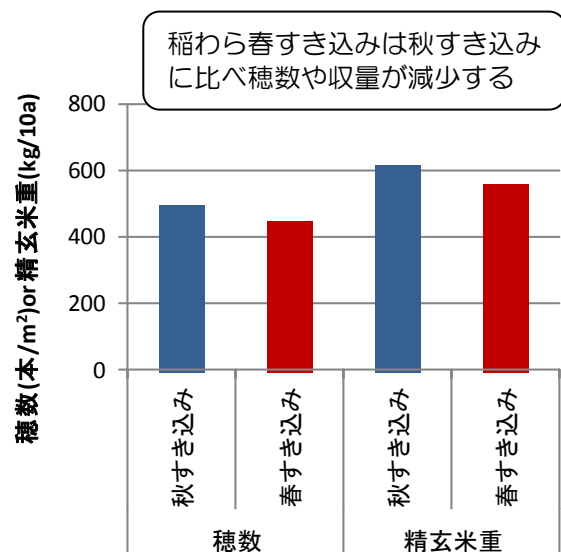


図2 稲わら鋤き込み時期による穂数および精玄米重(トドロキワセ)の違い(昭和52:新潟農総研)

## ◇堆肥は土づくりに最適な資材

～秋施用で地力アップ！～

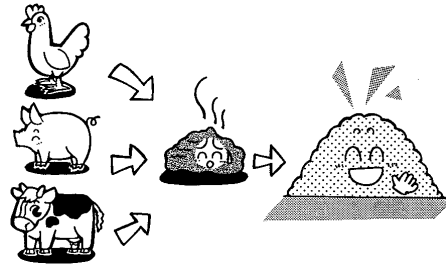
家畜ふん堆肥は、有機質資材としての効果と、窒素成分やリン酸、加里が含まれているため肥料としての効果が期待できます（化学肥料を低減できる）。堆肥の種類等によって成分等が異なるので、成分や特徴を確認して使用しましょう。堆肥は、一度に大量に施用するのではなく、連年で適量を施用しましょう。

稲わらやもみ殻とともに、秋施用してからすき込むと、地力向上効果がさらに高まります。

表1 堆肥施用量のめやす

堆肥の種類	施用量(t/10a)
発酵鶏ふん	0.1
豚ふん堆肥	0.3
牛ふん堆肥	1.0

※発酵鶏ふん・豚ふん堆肥は、窒素成分が高めなので、過剰施用に注意する



## ◇土づくり肥料の施用で品質向上

～不足を補い登熟向上！～

近年、リン酸やケイ酸などの土づくり肥料の施用が減っています。リン酸は、根の発育や分けつの促進、登熟の向上に役立ちます。また、鉄は秋落ちの改善に、ケイ酸は茎を丈夫にし、葉を直立させ、倒伏防止や登熟の向上など米の品質の向上に役立ちます。

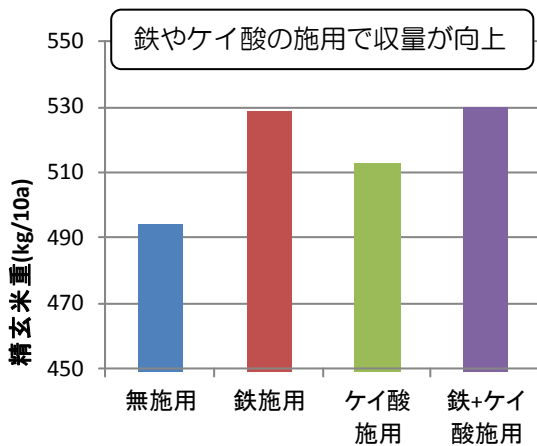


図3 老朽化水田において鉄およびケイ酸を施用した時の精玄米重  
(地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 平成13年度普及奨励事項)

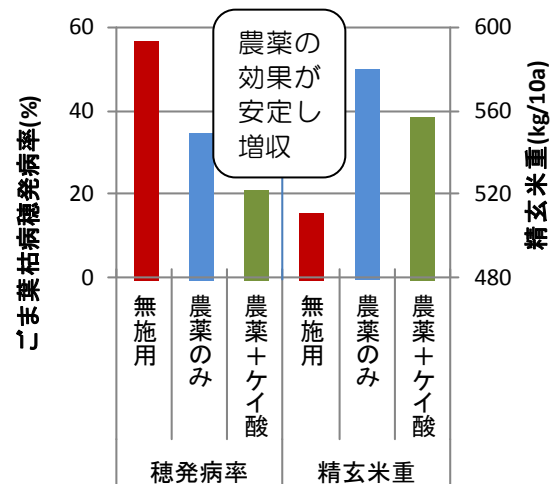


図4 イネごま葉枯病に対するケイ酸施用の効果  
(新潟農総研平成22年度活用技術)

表2 土づくり肥料と施用量のめやす (JA予約申込書より抜粋)

分類	資材名	施用量のめやす
ケイ酸混合	すくすく岩船米ソイル元気	60 kg/10a
	ソイルキーパー	40 kg/10a
リン酸	粒状ようりん	40~60 kg/10a
	ダブリン特17号	40 kg/10a
ケイ酸	ケイカル	120~200kg/10a
	けい酸加里プレミアム34	40~60 kg/10a
	スーパーシリカプレミアム	20~40 kg/10a
マンガン、鉄分	マン鉄ソイル	100 kg/10a
鉄分、ケイ酸分	農力アップ	60 kg/10a
マンガン、ケイ酸分	みつパワー	60 kg/10a

田んぼへの栄養補給をよろしくお願ひします！

